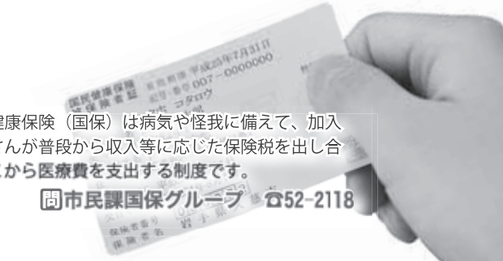
健康を支える
国民健康保険
加入する皆さんへのお願い



国民健康保険（国保）は病気や怪我に備えて、加入者の皆さんが普段から収入等に応じた保険税を出し合い、そこから医療費を支出する制度です。

問市民課国保グループ ☎52-2118

手続きは14日以内に

国保は他の健康保険制度とは異なり届出が必要です。職場の健康保険に加入・脱退した時は、14日以内に市役所の窓口で手続きをお願いします。手続きに必要な書類は次のとおりです。

■国保に加入する場合

事業所から発行される健康保険資格喪失証明書、印鑑

■国保を脱退する場合

新旧2つの保険証、印鑑

届け出が遅れると…

脱退の届出が遅れると、いつまでも保険税がかかります。脱退後に国保の保険証を使って診療を受けた場合、国保から支払われた医療費を後で返していただくことになります。また、加入の届出が遅れると、保険税を本来の資格取得日にさかのぼって納めることになります。

大学など進学の時は

高校・大学などに就学のため、国保へ加入している人が他市町村に転出する場合、特例により引き続き久慈市の国保に加入することができます。

転出先の役所に転出届を提出した後に、①学生であることが証明できるもの（在学証明書又は学生証）②今までの保険証③印鑑を準備し、久慈市役所の市民課4番窓口で手続きをしてください。

ジェネリックの利用を

ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、厚生労働省が特許の切れた先発医薬品と有効成分・分量・用法・用量・効能および効果が同等と認めた薬品です。薬の開発コストが先発医薬品よりも少ないため、薬代が安く済みます。ぜひ利用をご検討ください。

○国保税の納期内納付をお願いします。
○被用者保険（社会保険）等への適正な加入をしましょう
○資格の取得・喪失は必ず届けましょう
○病気の早期発見と早期治療のためにも健診を受けましょう

国保イメージキャラクター「ハピルス」くん

厳しい国保財政

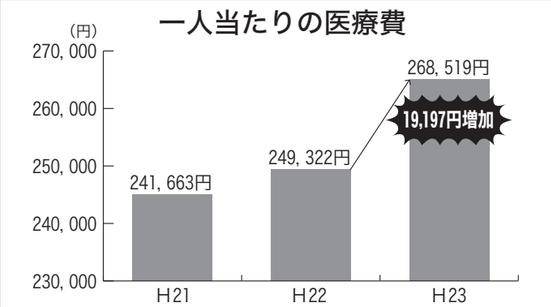
■増加する医療費

市の国民健康保険特別会計は、近年赤字が続く厳しい状況です。加入者の高齢化、医療の高度化などによる医療費の増額が主な要因。平成21年度と平成23年度を比較すると、総医療費や一人あたりの医療費が大幅に増加しています。国や県からの支出金や保険料では財源が不足するため、一般会計からの繰入金で国保制度を維持している状況です。

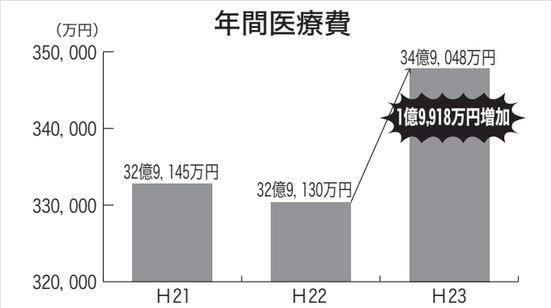
■健全化にご協力を

市では、保険税収納率や医療費の適正化のため、一定の期間にかかった医療費をお知らせする医療費通知やジェネリック医薬品利用差額通知を実施し、赤字の解消に務めます。

国保事業の運営の健全化のため皆さんのご協力をお願いします。



平成23年度は前年度に比べ約１万９千円（約7.7%）増加しています。



平成23年度は前年度に比べ約２億円（約6.1%）増加しています。歳出の約56%を医療費が占めており、加入者の医療費が国保財政の健全化のポイントになります。

News 久慈地方農業振興大会
農業者を部門ごとに表彰

久慈地方農業振興大会（久慈地方農業農村活性化推進協議会主催）は2月5日、市内催事場で開催。農業関係者ら約400人が参加しました。

大会では畜産や園芸などに積極的に取り組む農業者を部門ごとに表彰。久慈地方農業表彰・明日を拓く担い手賞は大上武さん（山形町）、個性ある「産地づくり」賞はやませ雑穀組合（田代重一会長・山形町）が受賞しました。大上さんは「受賞は光栄です。これからは今まで以上に品質管理などを頑張るとともに、教育旅行も引き続き受け入れていきたいと思います」と今後の取り組みに意欲をにじませました。

このほか、久慈まめぶ部屋の町おこし活動報告などが行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。

表彰を受ける大上武さん（右）

事例を発表する久慈まめぶ部屋の小笠原巨樹部屋頭

News 久慈消防署八日町分室に係る意見交換会
参加者から多様な意見

2月15日、やませ土風館で久慈消防署八日町分室の今後のあり方について意見交換会が行われ、住民ら15人が参加しました。

同分室は、久慈消防署が長内町に移転した後の平成12年1月から久慈消防署跡地に設置。平日9時30分から18時まで1部隊が勤務し、通常時は消防点検や立ち入り検査などを行っています。

始めに市消防防災課から市内での消防と救急の出動状況等を説明。続く意見交換では、高齢化が進む町中の現状から消防車ではなく救急車を配備してほしいといった要望や、八日町分室の建物を地域のコミュニティセンターや防災拠点として利用できないかなどの質問が参加者から出されました。

市では、同分室のより有効な活用の検討を行います。

あいさつをする菅原慶一総務部長

説明に耳を傾ける参加者

日本農業賞

特別賞に 越戸俊男氏（侍浜町）

第42回日本農業賞（全国農業協同組合中央会など主催）がこのほど発表され、越戸俊男さんが個人経営の部で特別賞を受賞。地域資源のコナラを活用し、大規模菌床しいたけ経営を確立したことと、廃止された国民宿舎を新たな観光拠点として再生させた手腕が評価されました。

越戸さんは「思いもよらない受賞でとてもうれしい。日に日に賞の重みを実感しています。今後も生産規模の拡大を図っていきたいです」と受賞を喜びました。

まめぶ汁は行列ができるほどの大盛況でした

三重県で応援交流フェア

「交流で元気に」期待込める

2月1日から11日まで、三重県名張（なばり）市で「東北応援交流フェア岩手久慈の産直美味いもん市」が開催されました。名張市が市の震災がれき受け入れに取り組んだことがきっかけとなり、交流が実を結びました。

三重県の鈴木英敬知事は「交流を進めてお互いが元気になれるようにしたい」と期待を込めていました。